第11回 Z世代の若者が切り開く、SDGsの未来

行方市SDGs推進アドバイザー・茨城大学准教授　野田 真里

若者・高校生、注目！ NHK茨城スペシャル「Z世代×SDGs」の共有

私事で恐縮ですが、NHK茨城スペシャル「Z世代×SDGsイバラキから世界を動かせ！」（2021年9月17日放送）に出演、SDGsの専門家として、コメントする機会をいただきました。茨城の高校生・若者のSDGsへの取り組みについて、長濱ねるさん（タレント・元欅坂46）、中村慶子さん（NHKアナウンサー）と共に、紹介・応援させていただき、貴重な機会に感謝申し上げます。行方市のSDGs推進の参考になる点も多く、要点を共有させていただきます。特に今回は、若者・高校生に注目していただきたいですね。

危機の時代を生きるZ世代の若者

Z世代とは、1990年代中盤以降に生まれた若者で、現在の高校生、大学生等にあたります。アメリカ由来の呼称で、X世代（1960年～1980年頃生れ、現在40～60歳）、Y世代（1980年頃～1990年代中盤生れ、現在40～25歳。ミレニアル世代とも）に続く世代となります。日本ではさらに上に、団塊の世代がいらっしゃいますね。

Z世代の若者の特徴として、第1に危機の時代を生き、将来に不安を抱えていることが挙げられるでしょう。バブル経済崩壊後の「失われた20年」（1990年代初頭～2010年代初頭）、9・11同時多発テロ事件（2001年）、リーマンショック（2008年）、東日本大震災（2011年）そして、新型コロナ禍（2019年～現在）と、日本そして世界で大きな危機が続いてきました。

SDGsに向けて、茨城の高校生・若者ならではのアイデアと行動

Z世代の第2の特徴として、多様な価値観と協調性をもっている点が挙げられます。つくば市の県立竹園高校の生徒さんが作成した「SDGsカルタ」は、英語のアルファベット（A-Z）26枚のカードでSDGsを伝えるという、とてもユニークな取り組みです。例えば、「X」は、「クリスマス、ラマダン、初詣。異文化を理解しよう」と英語で書かれ、多様な価値観を尊重しています（ラマダンはイスラム教の重要な文化で、断食を行います）。さらに素晴らしいことに、竹園高校の生徒さんは市内の小学校と協働して「SDGsカルタ」を無償で提供、高校生が小学校を訪問し、児童にSDGsと英語を教えています。

また、第3の特徴として、生まれた頃からインターネットやスマホに親しんでおり、いわばデジタルネイティブといえるでしょう。日立市の高校生のボランティア団体KURURe.は、大好きなファッションを通じてSDGsを推進、インターネットを駆使してシェアリング・アパレルショップを開設しました。その活動は茨城にとどまらず、全国に広がっています。

SDGsの展開に向けて、こうしたZ世代の高校生・若者ならではのアイデアと行動が大きなカギとなるでしょう。行方市の若者・高校生の皆さんが、自由な発想で楽しく、SDGsに取り組んでくださることを期待しています。上の世代の皆さん、若者を応援し、持続可能な行方を共に創っていきましょう。

NHK水戸放送局にて（筆者）

【問い合わせ】
政策秘書課（麻生庁舎）
☎0299-72-0811
Mail:seisaku01@city.namegata.lg.jp